



①「伊勢エビ祭り」牛深で捕れた天然の伊勢エビ。問い合わせは牛深観光協会へ ☎09697・3・2111 (期間) 9/1~11/30 (料金) 1泊2食付18000円(税別)。



③「うしぶか公園」水源池跡の池を中心に回遊式の日本庭園が作庭された。春には桜、初夏のあやめ、新緑、秋の紅葉など四季折々の表情を見せてくれる。アスレチック広場、テニスコートなどもある。



④「グラスポート」牛深海中公園に生息するエダサンゴやテーブルサンゴ、イソギンチャクやウミアザミの群生が見られる。問い合わせは切符売り場へ ☎09697・2・2032。料金1300円(子供650円)。



⑤「桜木展望所」視界200度。牛深の新名所としてこの春に完成した。八代海から東シナ海、そこに浮かぶ島々が楽しめる。



⑥「茂串海水浴場」東シナ海に広がる海と白い砂浜。海の色はエメラルドグリーン、ブルー、そして藍色に変化していく。また、この砂浜は海亀の産卵地としても有名。5月から8月の産卵期には、海亀が姿を現すところでもある。手付かずの自然が残る海水浴場として、多くの注目を集めている。



⑦「いさり火探検」樽受網漁の見学のあと、捕れたての魚の塩焼きを味わえる。また、牛深ハイヤ踊りも披露される。問い合わせは三和商船☎09697・3・2103。(期間) 7/25~8/29の毎週土曜日(但し8/14、16は出港、8/15は休み) (料金) 2060円(子供1030円)。

牛深

▼港の屋下がり…
江戸時代はカツオ漁の基地。そして現在は年間約五万トンの水揚げを誇り、その大半をイワシ漁が占める。午後の海を眺めていた。目の前をスウーとカモメが飛びかう。その向こうに、船首を陣取った海の男を乗せて、漁船が白い波を蹴って沖へと出ていった。

牛深に来たら、やりたいこと、行きたいところがいっぱいある。夏の陽射しを味方に行動あるのみだ。

▼サンゴと魚、そして、青い海
『牛深海中公園』はサンゴの群生が見られる日本での北限。さっそく遊覧



▼水平線の果てを見てしまった…
アスレチック広場や回遊式の日本庭園がある「うしぶか公園」。東屋に腰

と、船長の佐々木さん。透き通るようなブルーの魚を見つけて思わず質問したりして、あつと言う間の八十分…。

船グラスポートに乗り込んだ。ポイントが違えばサンゴの種類も違うという。船底のガラス板にじっと目をこらす。干満の差で赤紫の色に変化するオオトゲトサカ、黄色いサンゴは海の中でも一際目立っている。イソギンチャクやウミアザミが優雅にゆれている。大小さまざまな魚がサンゴの周りを遊んでいた。

「あれは何という魚ですか？」
「青かつでしょう、コバルトスズメですよ」



潮風、青い空、コバルトブルーの海。夏のシヨウが今から始まる。からだ一つで遊びに行こう。

サンゴの群生する海を訪ねて——牛深

▼教えたくないけど教えてあげる！
離合もできないほどの狭い道を抜ける。と、エメラルドグリーン。う、感嘆の言葉と波の音だけの世界だ。照りつける太陽のもとを歩き続けると白砂のビーチ「茂串海水浴場」が広がる。贅沢は言わない、ただ、そこに美しい海があるだけいい、そんな感じだ。

シーズン中は、駐車場も朝七時には満杯になるという。以前は、地元の人々だけのプライベートビーチで、なかなかその場所を教えてくれなかったとか。下須島には白銀の砂浜が五百メートル続く「砂月海水浴場」もある。

「地球ってホントに丸いんだ…」
ここは水平線の果てまでも見渡せる。視界二百度のパノラマ展望所であった。

少し車で走ると『桜木展望所』に着。白いラインを引きながら走る船。東シナ海と八代海、そこに浮かぶ島々が眼下に広がる。



▼港・牛深をダイナミックに楽しむ
昼がレジャー三昧なら、夜はグルメ三昧だ。夏休み期間中の毎週土曜夜の『いさり火探検』はレジャー&グルメが楽しめる欲張りコース。フェリーに乗り込み十分ほど沖へ走ると、そこですぐに樽受網漁の作業が始まっていた。白っぽい集漁灯に魚群が集まる。フェリーの灯が消え、いよいよクライマックス。網に魚群を追い込み、巻き上げる。その瞬間を固唾をのんで見守る。網の中に飛び跳ねる銀鱗に、どこからともなく拍手、喚声があがった。漁船から運び込まれた捕れたての魚に舌鼓み。牛深ハイヤの踊りも披露され、ダイナミックな夏の夜の一時。

九月から十一月末日まで「伊勢エビ祭り」も行われる。天然の伊勢エビの造りやボイル、魚刺身など十二品の料理がズラリ。食欲の秋はこれで決まり。もし、海の旅を楽しみたいというなら水俣と牛深を八十分で結ぶ「高速船ガルーダ」で入るのもいい。目的別に選んで遊べる、それが牛深。視線を変えれば、また違った一面を発見できるはずだ。